

いす度間近で見たかったアシ

昨年、2013年10月号「行こう行こうと思っていた所へ行ってみる」でご紹介した「駒沢給水塔」。間近で見るとは10月1日の見学会(主催:駒沢給水塔風景資産保存会)に参加するしかない! と思い、今年は事前に申し込み、参加してきました。生憎の天気でしたが大勢の参加者が集まり会は大盛況。間近で見た感想は、やはりデカイ! それが第一印象。さらに敷地内には歴史的価値のあるものが多数遺っていました。怪人二十面相には会えませんでした。アールデコ調の装飾の有る建物等もあって大正時代の建築家の「粋」を十分堪能できました。晴天の写真も撮りたいので来年も参加するつもりです。



左が2号塔で右が1号塔。パノラマ撮影のためトラス橋が湾曲しています。

◆給水塔◆ (駒沢給水塔風景資産保存会の見学会資料を参考にさせていただきました)

大正時代、今の渋谷区は東京府豊玉郡渋谷町と呼ばれていました。その渋谷町は大正の初期からどんどん発展し、人口が増加するにつれて井戸水が枯れたり水質が悪くなったりして飲料水が不足し、町営水道の創設が待ち望まれるようになりました。1917年人々が待ち望んだ水道を渋谷町が単独で敷設することが決まり、さっそく実施計画に取りかかりました。それは、多摩川の川底を流れる伏流水(地下水)を採るしくみでした。採った水は、同河畔の砧浄水場(現在の砧下浄水所)で濾過した後、ポンプで東京府荏原郡駒沢村字新町に設置した駒沢給水場内の給水塔に送られ、給水塔からは渋谷町の町内に自然流下で配水します。給水区域は渋谷町全域とし、給水量は一人一日最大約110リットルが賅えました。1923年かの関東大震災が発生。しかし、給水塔に被害はありませんでした。その反面、大震災による井戸の破壊や井戸水の枯渇、混濁などで、給水の申し込みが一層増加しました。1924年3月1号塔と2号塔がトラス橋で結ばれ、ここに全工事が終了し、現在と同じ風景が出現しました。また、時の内務大臣水野練太郎氏筆の銘板を、それぞれの塔にはめ込みました。1号塔には『清冽如鑑』。2号塔には『滾々不盡』。この月の14日、駒沢給水場で盛大な竣工式が行われました。その後、給水塔は元気に稼働してきましたが、1989年(平成元年)56年間稼働した第1ポンプ所がまずその役目を終えて停止しました。さらにその後の1999年(平成11年)34年間稼働した第2ポンプ所も停止し、給水所としての機能も停止になりました。驚くべきはつい最近まで稼働していたということです。私はてっきり昭和の時代に役目を終えて平成以降は完全な風景遺産だとばかり思っていました。お疲れ様でしたと言いたいです。



『清冽如鑑』



『滾々不盡』

多摩川・砧から渋谷への水之道

『清冽如鑑』
～セイレッカガミノゴトシ
『滾々不盡』
～コンコトシテツキズ
内務大臣だった水野練太郎氏の筆です。当時の関係者の思いがひしひしと伝わってきます。



* てくたく刀サッチ #16 「向稲荷」用賀 7-26 *

この稲荷は、京都伏見稲荷の分霊を祀り、通称正一位向稲荷といひます。用賀字向の住民が家内安全、五穀豊穰、商売繁盛祈願のために創建したもので、その年代は不明ですが、古文書には天保3年(1832)に初午祭が行われたとの記録がありますから、相当古くに創建されたと考えられます。この初午祭は毎年続けられており、現在は講中の子孫約20名が慣例に従い、2月の第2日曜日に行っています。当日奉納された菓子、果物などは参詣に訪れた子供たちに配られ、成長の喜びを祈願します。現在の社は、明治34年(1901)に講員が資金を出し合い、用賀の宮大工樽屋(棟梁、故高橋綱吉氏)に発注して建築したもので、その費用は50円であったと記録されているそうです。神社だと狛犬ですが、稲荷なので狐が出迎えてくれます。





スクラッチタイルの外壁



アールデコ調の入口と電灯



アールデコ調の装飾

◆第1配水ポンプ所◆

第1配水ポンプ所は昭和7年に建造された配水用のポンプ所。直方体に近いシンプルな形で、外壁にはスクラッチタイルが貼ってあります。



スクラッチタイルとは、釘の先端等で掻き傷模様を作って焼いたタイルのことで、一つ一つ色合いが微妙に違い、全体として柔らかな色合いを感じさせます。正面には背の高い長方形の窓を並べ、その中央に出入り口があります。この出入り口の周りにはアールデコ調の装飾がされています。一見なんの変哲もない建物に見えますが、大変洒落た昭和初期の名建築といわれ、給水塔とともに貴重な近代化遺産となっています。室内には大きなポンプがデーンと置かれていたり、時代を感じさせる電気設備等があり、タイムスリップしたような感覚になります。

◆水道布設記念碑◆



給水所ができて3年目の昭和2年に、水道の敷設を記念して建てられた記念碑です。高さは約12m、ギリシャ・ローマ風の獅子頭から水が溢れ出し、西洋風庭園の趣があります。記念碑全体は幾何学的形態を巧みに盛り込ませたアール・デコ調の装飾が施されていて芸術性豊かな建造物です。

◆ベンチュリー・メーター室◆



ベンチュリー・メーター＝量水計です。英国から購入した当時の最新鋭機で、澁谷町へ流出する水量を自動的に計測していました。室内には当時の写真が飾られています。



◆装飾灯◆

竣工当時は毎夜点灯され、遠く道玄坂からも見えた装飾灯。今は、さくらまつり・水道週間・都民の日・年末年始にしか点灯されません。年末年始は要チェックです。



◆水道道路◆

写真では判りづらいですが正面奥に三軒茶屋キャロットタワーが見えます。一直線に伸びる水道道路です。キャロットタワーから見るとまっすぐに道が伸びているのがわかります。ようやく展望室から見える景色に給水塔が追加されたそうです。



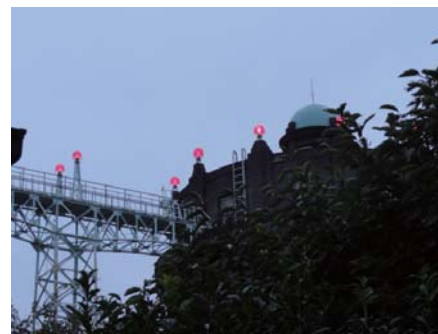
◆塔の下の鉄蓋◆

よく見ると澁谷字という文字が見えます。大正12年竣工当時の物。



◆心字池◆

雪見灯籠を配した純和風の池です。この池も竣工当時にできました。



それ行け!! アサッチ

